

エリートツリーと特定母樹

エリートツリーとは

成長に優れた苗木とは、樹木の品種改良（林木育種）により成長等が改良された「エリートツリー」を母樹として生産した苗木のことをいいます。日本では、昭和 30 年頃からスギ・ヒノキ・カラマツといった主要な林業樹種で成長等の形質が優れた樹木を「精英樹」として選抜しました。日本の林木育種は、この精英樹を中心に進められてきました。精英樹を試験林（検定林）に植栽して、木の高さや幹の太さといった成長などを定期的に調査し、精英樹の特性を明らかにしました。そして、精英樹のなかで成績が上位だったもの同士を交配して得られた後代の苗木を再度植栽し、それらの成長や雄花の着き方、幹の強度（ヤング率）を改めて調べて、上位のものを第二世代精英樹として開発しました。この第二世代精英樹や今後開発することになる第三世代以降のものも含めて「エリートツリー」と総称しています。

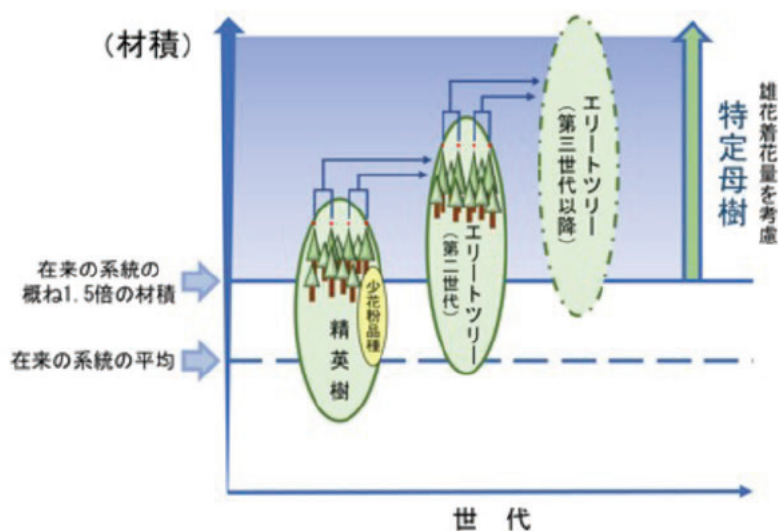


図 1. 精英樹からエリートツリー開発への流れと特定母樹との関係

特定母樹とは

間伐等特措法が平成 25 年に改正され、その際に今後の森林整備に用いる苗木を生産するための母樹として「特定母樹」の制度が設けられました。基準を満たしているものが農林水産大臣により「特定母樹」に指定されます。成長に優れた苗木である「エリートツリー」は、今後「特定母樹」として普及が進んでいくことになります。

エリートツリーと特定母樹の違い

エリートツリーも特定母樹も、成長性、材の強度（剛性）、雄花の着き方によって選ばれている点は同じですが、大きな違いがあるとすれば、成長性と雄花の着き方についてです。成長性については、エリートツリーは、精英樹のグループの中で上位のものを選んでいっているのに対して、特定母樹では、単木の材積が従来の系統の概ね 1.5 倍以上のものを選んでいっています。また、雄花の着き方については、エリートツリーは雄花が多いものを除いているのに対して、特定母樹では、従来のスギの半分以下のものとしている点です。特定母樹には、エリートツリー以外にも、成長がよい少花粉のスギ精英樹なども指定されています。